

令和元年度我孫子市版事業仕分け 説明資料

# 手賀の丘フレンドシップツアー



令和元年10月4日

子ども部 子ども支援課 青少年担当



# 宿泊事業の位置づけ

- ▶ 宿泊事業は、平成16年に策定された「第一次我孫子市子ども総合計画」で新たに組み込む18の事業のひとつに掲げられ、当時は教育委員会社会教育課が主管課となり、指導課と連携しながら実施してきました。その後、平成21年の組織改編で社会教育課の青少年担当が、子ども部子ども支援課に移り、宿泊事業は首長部局と教育委員会の共催事業となりました。
- ▶ また、市や教育委員会の各主要計画の中でも、重点施策の一つとして位置づけられています。
  - **我孫子市第三次総合計画【市】**
  - **我孫子市まち・ひと・しごと創生総合戦略【市】**
  - **我孫子市子ども総合計画【市】**
  - **我孫子市教育振興基本計画【教育委員会】**

スライド3～6参照

## ▶ 『我孫子市第三次総合計画』（平成28年3月／企画課）

⇒第三次基本計画

⇒第二編 分野別計画

⇒第三部 健康福祉

⇒第三章 必要なときに必要に応じて受けられる福祉サービス体系の確立

⇒第一節 子育て支援

⇒施策の展開

**○子どもの健やかな成長を促す場や機会の充実 33104**

**「子どもたちが自主性、社会性、創造性などさまざまな能力を伸ばし、生きる力を身につけられるよう、青少年育成団体への支援と連携を強化しながら、宿泊通学やキャンプなどのさまざまな体験活動を推進します。（後略）」**

## ▶ 『我孫子市まち・ひと・しごと創生総合戦略』

(平成28年12月改訂／企画課)

⇒基本目標3

あびこで子どもを産み、育てたくなるまちづくり

⇒基本的方向3

安心して学べる教育環境づくり

⇒施策3) 地域で子どもを支える体制の充実

**「子どもたちが自主性、社会性、創造性などさまざまな能力を伸ばし、生きる力を身につけられるよう、青少年育成団体との連携を強化しながら、宿泊通学やキャンプなどの自然体験・生活体験活動を推進します。その他、保護者や地域の方々と連携して、子どもたちが安心してのびのびと過ごすことのできる場や機会を確保します。」**

## ▶ 我孫子市子ども総合計画（平成27年3月策定／子ども支援課）

### 【基本理念】

あびこの自然やひとの愛に包まれて 子どもが自分らしく育つまち

### 【基本目標（大分類）】

地域で支える  
子育て支援

### 【基本方針（中分類）】

#### ① 子育て支援のネットワークづくりと情報発信

- 子育て支援サービス利用者へのコーディネート
- 子ども向け情報紙・冊子
- 子育て交流フリーマーケット
- あびこの魅力発信

#### ② 子育て支援サービスの充実

- 子育て支援拠点
- 病児・病後児保育
- ファミリー・サポート・センター
- 市立保育園の地域子育て支援
- enjoy パパ応援プロジェクト
- 企業参加の子育て支援
- 子育てを学べる講座
- 子ども相談窓口の充実
- ライフサポートファイル

#### ③ 教育・保育サービスの充実

- 幼稚園・保育園・認定こども園等
- 一時預かり
- 学童保育室

#### ④ 地域で育む環境づくり

- 子育てサポーター
- あびっ子クラブ
- 子ども関係団体との連携
- 子どもが関わるまちづくり
- 手賀の丘ふれあい宿泊通学

#### ⑤ 子育て家庭への経済支援

- 児童手当
- 子ども医療費助成・未熟児養育医療・育成医療



## ▶ 我孫子市教育振興基本計画（平成28年3月策定／教育委員会）

### （3）子ども部との連携強化

市は、平成21年に子ども部を創設し、子ども行政をより一層推進するために、積極的にさまざまな取り組みを展開してきました。子どもの健やかな成長のためには、これからも継続して、教育委員会、子ども部、地域社会が一体となり、社会全体で子育てや子育てを支援していく必要があります。

今後も教育委員会、子ども部、地域社会の社会全体でより密接な連携強化を図っていきます。

### ○子どもの健やかな成長を促す場や機会の充実（子ども支援課）

#### 【現状と課題】

子ども部では、就学児への支援として放課後や土曜日などに子どもたちが安全に過ごせる場所として、あびっ子クラブの全小学校への設置をめざし、これまでに10か所整備するとともに、学童保育室の充実を図ってきました。

また、市内の子ども関係団体や青少年相談員等と連携し、イベント等を開催することによりさまざまな体験活動の場を提供しています。さらに、手賀の丘ふれあい宿泊通学の実施により子どもたちの自立心・協調性を育む取り組みを行っています。

今後は、あびっ子クラブの全小学校への設置を進めるとともに、サービスの質の向上を図るため、学童保育室との一体的な運営を進めていく必要があります。さらに、体験活動のさらなる充実と、それを支える人材の育成が求められています。

#### 【方向性】

◆子どもたちが自主性、社会性、創造性などさまざまな能力を伸ばし、生きる力を身につけられるよう、青少年育成団体への支援と連携を強化しながら、宿泊通学やキャンプなどのさまざまな生活体験活動を推進します。

# 手賀の丘フレンドシップツアー概要

- ▶ **主 催** 我孫子市、我孫子市教育委員会、県立手賀の丘少年自然の家
- ▶ **目 的** 県立手賀の丘少年自然の家を宿泊場所とし、他校の児童と共同生活を送ることによって、自立心・協調性を育むことを目的とする。
- ▶ **目 標** みんなと元気にあいさつをして、友達をいっぱいつくろう！  
(班の目標と個人の目標もたてます)
- ▶ **宿泊場所** 県立手賀の丘少年自然の家
- ▶ **参加費** 2,500円 (保険料、シーツ代、食事代など)

教育委員会指導課と協議の上、学校行事と重ならない時期を選び、市内全小学校を1回目(7月上旬)と2回目(9月下旬)に振り分けて実施しています。

# 参加費の積算根拠

▶ 参加者一人当たりの費用・・・ **約2,623円**

【内訳】	夕食	7	0	2	円	
	朝食	4	8	6	円	
	昼食	8	0	0	円	(野外炊飯)
	シーツ	1	8	5	円	
	保険代	3	3	0	円	
	消耗品	2	2	0	円	(バンダナ等)

※市・教育委員会・手賀の丘少年自然の家の共催事業のため、宿泊費は**無料**  
⇒これを踏まえて、**参加費として1人2,500円**を徴収しています。



# 実施までの流れ

## 1. 教育委員会及び手賀の丘少年自然の家との打ち合わせ

(開催日程決定・対象校の割り振り・学校教職員への周知)

## 2. 川村学園女子大学への協力依頼

(実習生としての受入れ・学生ボランティアの協力依頼、協定書締結)

## 3. スタッフの打ち合わせ

(子ども支援課及び教育委員会職員、川村学園女子大学学生)

## 4. 資料の作成

(しおり、事前研修会資料、役割分担表等スタッフの動きに関わる資料 など)

## 5. 事前研修会

(事業概要説明、参加児童との交流、班の係決め など)

## 6. 当日

事業の流れや役割分担だけでなく、子どもと接する際に気をつけることなどを共有します。

## スタッフ（1回あたりの人数）

### ▶ 子ども支援課職員・・・6名程度

（青少年担当2名、野外すいはん等スタッフとして2日目に3～4名）

### ▶ 教育委員会指導課ほか職員・・・2名程度

### ▶ 川村学園女子大学 学生・・・4名

（班担当として4名。参加児童の班ごとに1名ずつ付いてもらいます）

# 事前研修会

## 1. 主催者挨拶

## 2. スタッフ自己紹介

## 3. 事業内容の説明

(「しおり」に沿って持ち物、2日間のスケジュールなどを確認)

## 4. トイレ休憩

## 5. 全体レク (アイスブレイク)

(班ごとの話しあいを前に参加児童の緊張をほぐすためレクを行います)

## 6. 班ごとの話しあい

(目標・ニックネーム・係決め等)

※スタッフは子どもに目を配ります

## 7. 班ごとに目標・係の発表

## 8. 閉会

初めて会う他校の児童と打ち解けるまで少し時間がかかるため、事前研修会での交流は重要です。



# 手賀の丘フレンドシップツアー当日

## 1日目 ①オリエンテーション ②夕食

### ① オリエンテーション

参加児童の学校付近まで迎えに行き、児童が全員そろったら施設職員から施設利用のルールなどの説明を聞きます。

(全員がそろうまでは体育館でレクをやったり宿題をやったりします)



### ② 夕食

部屋に荷物を置いたら、食堂でバイキング形式の夕食をとります。残さず食べられる分だけを取ることや、好き嫌いをせずにバランスよく食べることなどを指導します。





# 1日目 ③体育館レク／ナイトウォーク ④まとめの会

## ③ 体育館／ナイトウォーク

夕食後は体育館で参加児童同士の交流を図ったり班ごとの結束を強めたりするレクを行います。また、体育館レクではなく手賀の丘公園のナイトウォークを実施する回もあります。天候などに応じてプログラムは変更します。



## ④ まとめの会

お風呂で汗を流したら、食堂で班ごとに「まとめの会」を行います。係ごとの役割が書かれた「ミッションカード」に沿って、各自が係の役割を全うできたかを振り返り、2日目につなげます。また、班長を中心に班全体としての振り返りも行います。



# 手賀の丘フレンドシップツアー当日

## 2日目 ①そうじ ②朝食 ③手賀の丘公園レク

(※雨天時は施設内のプラネタリウム鑑賞)



### ① そうじ

起床して身支度を整えたら、部屋の掃除と施設で割り振られた共有場所（トイレや洗面所など）のそうじを行います。「使う前より美しく」を心掛けるよう指導します。

### ② 朝食

食堂にてバイキング形式の朝食をとります。

### ③ 手賀の丘公園レク

退室のため荷物を移動させたら手賀の丘公園に移動します。班ごとにレクを行ったり公園散策を行ったりします。この間、子ども支援課職員は野外すいはんの準備を進めています。





## 2日目 ④野外すいはん（調理）

### ④ 野外すいはん（調理）

主に、3つの役割に分かれて調理します。

- 班ごとに作るメニューの係（カレーやフルーツポンチなど）
- かまど係（火おこしやカレーづくりなど）
- 全員分をまとめて作るメニューの係（コールスローサラダなど）

包丁や缶切り、マッチなどを初めて扱う児童が多いので、担当スタッフが注意深く見守ります。



## 2日目 ⑤野外すいはん（食事・片付け）

### ⑤ 野外すいはん（食事・片付け）

班ごとに自分たちで作ったものを、いただきます。

また、食べ終わったあとの片付けも自分たちで行います。ゴミの分別や食器類の洗い方（汁気を捨てて残飯は燃えるゴミに、皿についた汚れは拭き取ってから洗う など）を教えながら行います。手が空いている児童がいたら、床の掃き掃除をしてもらうなど、臨機応変に対応することも学んでもらいます。





## 2日目 ⑥終わりの会

- ▶ 今後の事業に生かすため、手賀の丘フレンドシップツアーについて「アンケート」を実施しています。
- ▶ 「ミッションカード」を用いて2日目も各自の役割を果たせたか、班ごとの目標が達成できたかを振り返り、班ごとに発表してもらいます。
- ▶ 班担当として参加児童と身近に接してくれた川村学園女子大学の学生からも一言ずつ感想を言ってもらいます。
- ▶ 終わりの会が終了したら、班のみんなともお別れです。
- ▶ 学校ごとに分かれて学校付近まで送り届けたら事業終了です。



## 後日 ⑦アンケート集計・結果の共有（児童）

- ▶ 2日目「終わりの会」で参加児童に回答してもらったアンケートを集計し、課内及び教育委員会と結果を共有しています。
- ▶ 設問は、「自分で決めた目標を達成できたか」、「事業自体に参加してよかったか（また参加したいか）」、「感想（自由意見）」などを設けています。
- ▶ 「感想（自由意見）」では、次のような意見が多く見られます。
  - みんなと協力して野外すいはんやレクをするのがとても楽しかった。
  - はじめは不安や緊張があったけれど、ちがう学校の子たちと友だちになれてうれしかった。
  - 友だちがたくさん作れた。
  - 中学や高校になってもまた参加したい。



## 後日 ⑦アンケート集計・結果の共有（保護者）

- ▶ 過去に行った保護者向けアンケートでは、以下のような、本事業の目的が達成できたことがうかがえる意見が寄せられました。
  - 「宿泊通学を終えてから娘の様子が変わったような気がします。少し大人になったというか、自信がついたというか、はっきりとはわかりませんが、宿題や日常の行動が少し主体的になった気がします。『経験は教えることが出来ない。』と言いますが、娘は宿泊通学を経験し、そこから何かを得て成長することが出来たようです」
  - 「TVもゲームも無い環境だと早寝早起きができるのですね。親として日頃の環境を考えさせられました。ひとりっ子なので、私が手をかけすぎてしまっていないか気になっていました。今回の体験で、自分の事は自分でできるという自信がついたと思います。」
  - 「我が子は、人見知りな性格の為、元々こういう体験学習などあれば参加させたいと思っていました。」
  - 「なかなか普段経験できない貴重な経験なので、継続して行ってほしい。ぜひ下の子達にも受けさせたい。」
  - 「知らない人と知り合い、一緒に何かやり遂げる体験は、とても貴重な機会だと思います。すごく楽しかった！と帰って来たので、参加させていただけで良かったと思いました。」
  - 「野外炊飯では失敗ばかりで皆に迷惑をかけてしまったと言っていますが、とても充実していたようです。是非、来年以降も実施していただきたいです」

# これまでの見直し・改善について

## ▶ 平成29年度までの課題

### ① 事業主体及びスタッフについて

- ・ 平日に2泊3日の行程で、年3回実施していたため、スタッフの負担が大きく、人員確保が困難でした。

### ② 事業内容について

- ・ 参加校の下校時刻が異なる上、宿題を行う時間を取るなどする必要があったため、少年自然の家において活動できる時間に余裕が持てず、参加者同士で交流する時間が少なくなってしまう、本来の事業目的にそぐわない状況でした。
- ・ 登校時間にあわせるため施設側の通常の朝食ではなく、菓子パンで対応していました。

### ③ 学校・その他との調整

- ・ 学校行事を避けての日程調整が困難でした。
- ・ 児童を迎えに行くまでの間、教員の集合場所への引率が負担との声が出ていました。



# これまでの見直し・改善について

## ▶ 平成30年度以降の改善点

### ① 事業趣旨

見直し前は「通学しながら他校の児童と共同生活を送る」としていたが、「通学しながら」を取りました。宿題の時間などを設けなくてよくなったため、参加者同士の交流を図る時間を多く割くことができ、本来の趣旨に沿って実施できるようになりました。

### ② 日程・回数

- ・ 見直し前：水曜日の放課後から金曜日の朝（登校）まで2泊3日 年3回実施
- ・ 見直し後：金曜日の放課後から土曜日（14時頃まで）の1泊2日 年2回実施

### ③ 受け入れ人数

見直し前：募集32人×3回=96人 ⇒ 見直し後：募集36人×2回=72人

※さらに令和元年度は1回の募集定員を32人に変更。1班8名とすることで、スタッフの目が行き届きやすくなるようにすることを考慮して変更しました。

### ④ その他

- ・ 2日目の朝食も施設の通常メニューを食べてもらうことができます。
- ・ 年2回の実施となり、学校行事等との調整が容易になり、学校側の負担も軽減できています。
- ・ 実施回数、実施日程の変更により事業費予算を削減できました。

## ▶ 最後に

### ▶ 子どもの育ちの変化の社会的背景（文科省中教審より一部抜粋）

- ▶ 少子化，核家族化，情報化などの変化を受けて，価値観や生活様式が多様化している一方で，社会の傾向としては，人間関係の希薄化，地域社会のコミュニティー意識の衰退，過度に経済性や効率性を重視する傾向があります。
- ▶ 子どもが成長し自立する上で，実現や成功などのプラス体験はもとより，マイナス体験も含め，多様な体験を経験することが不可欠であります。
- ▶ しかしながら，少子化，核家族化が進行し，子ども同士が集団で遊びに熱中し，互いに影響しあって活動する機会が減少するなど，様々な体験の機会が失われ，情報化の進展によって，子どもの生活空間の中で，スマホやテレビゲーム、インターネット等の室内の遊びが増えるなど，偏った体験を余儀なくされています。
- ▶ これらのことから、手賀の丘宿泊事業は様々な計画に位置付けられ、子どもの健やかな成長を育む一助となる事業であります。
- ▶ これからも市と教育委員会が連携し、我孫子市の子どもたちの為になるよう、より良い事業となるよう進めていきたいと考えております。

## ▶ ご清聴ありがとうございました

